

地域脱炭素移行・再エネ推進事業計画（重点対策加速化事業）

(基本情報)

| | |
|---------|---------------|
| 地方公共団体名 | 宮崎県 |
| 計画の名称 | ひなたゼロカーボン推進計画 |
| 計画期間 | 令和4年度～令和8年度 |

1. 2030年までに目指す地域脱炭素の姿

(1) 目指す地域脱炭素の姿

【温室効果ガス排出量削減の状況】

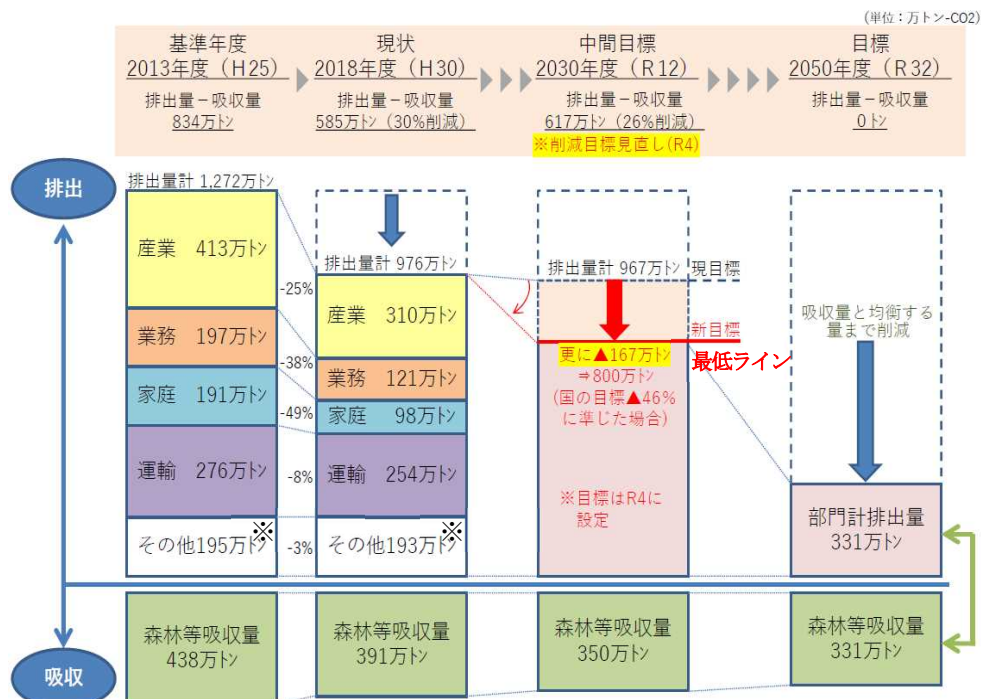
宮崎県における2018年度の温室効果ガス排出量は、976万t-CO₂と排出量ベースで2013年度と比較して▲296万t-CO₂、率にして23%削減した。削減の要因としては、省エネ等による電力使用量の減少（電力調査統計における電力需要実績は、比較可能な2016年度の7,223百万kWhから2018年度は7,053百万kWhに減少）や、再生可能エネルギーの導入拡大（同統計における太陽光による発電量は2016年度の57,481kWhから2018年度は219,678kWhへと大幅に拡大）によるものと考えられる。

また、排出量を部門別に見ると、電気の使用割合が比較的高い業務部門や家庭部門において大きく削減が進んでいるが、運輸部門や農業分野から排出されるメタン等のその他*の分野において削減が進んでいない状況となっている。特に排出量全体の20%を占めるその他*においては、本県は農業産出額が全国第6位であるなど農業や畜産業が盛んであることから、同分野からのメタン等がCO₂換算で全体の12%を排出している状況となっている。

○ 吸収量も踏まえた削減目標

2018年度の森林吸収量は391万t-CO₂と総排出量の40%に相当する量となっており、総排出量から吸収量を引いた実質排出量は585万t-CO₂で、2013年度と比較して30%の削減となっている。

これは、本県が2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標としている26%を上回っていることから、本年度、県の地方公共団体実行計画に位置づけている「宮崎県環境基本計画」を改定し、国の削減目標（46%）を踏まえて、数値目標を見直すこととしている。



【本県の部門別排出量の特徴、2030年に目指す姿と実現に向けた施策】

| 部門 | 産業部門 | 業務部門 | 家庭部門 | 運輸部門 |
|--------------------|--|---|--|--|
| 排出割合 (2018) | 31.7% | 12.4% | 10.1% | 26.1% |
| 削減率 (2013-2018) | 25% | 38% | 49% | 8% |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・特定事業者(原油換算 1,500kL 以上使用)が産業部門全体の3/4を排出。 ・産業部門のうち、製造業が全体の25%(主要産業である畜産業、農業由来のメタン等を含まない) ・製造業での太陽光発電設備普及率は1/3程度。うち8割が売電目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模な事業者が多い | <ul style="list-style-type: none"> ・一軒家が多い ・太陽光パネル普及率 8%は全国第3位(H30住宅・土地統計調査) ・二重以上のサッシ又は複層ガラスの窓の導入率(同調査)は全国平均29%に対して本県は17%にとどまる | <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利便性が低く、車が移動の中心 ・首都圏など県外への輸送手段はトラックが主流(約74%) ・主要4部門中、削減率が最も低い |
| 目指す姿 (2030) | <ul style="list-style-type: none"> ・製造工程等の可能な限りの電化 ・工場、事業所等の最大限省エネ化 ・再エネ由来電力の調達率向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ZEB事例の増加 ・新築 ZEB Ready, Nearly ZEB 標準化 | <ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅における断熱改修の普及 ・住宅のエネルギー自給率向上(高効率省エネ設備及び再エネ設備の最大限導入) ・新築 ZEH 標準化 | <ul style="list-style-type: none"> ・充電設備の拡充 ・個人及び法人(運送業及びタクシー業含む)の電動車等標準化 ・自転車、公共交通機関の活用率向上 |
| 施策 (R4~) | <ul style="list-style-type: none"> (共通)・<u>太陽光発電設備及び蓄電池導入補助(本事業含む)</u> ・<u>高効率省エネ設備の導入、更新補助(本事業含む)</u> ・<u>県民向けプロモーション</u> | | | |
| 下線部が本事業における取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>バイオマス発電、熱利用設備導入補助(本事業)</u> | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>県庁舎等への再エネ導入、省エネ改修(本事業含む)</u> ・再エネアドバイザー派遣(R3~) | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>既存住宅の断熱改修補助(本事業)</u> | <ul style="list-style-type: none"> ・EV導入補助* ・充放電設備設置補助* |

※ 電動車及び充放電設備については、令和4年度は「クリーンエネルギー自動車導入促進補助金(経済産業省)」と併用可能な「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(内閣府)」を活用して協調補助を実施。なお、令和5年度以降は、経済産業省の同補助金を活用した電気自動車等の導入を積極的に推進することとしており、本事業では補助対象としない。

(2) 改正温対法に基づく地方公共団体実行計画の策定又は改定

「第四次宮崎県環境基本計画」(2021年3月)

- ・2050年温室効果ガス排出実質ゼロを掲げ、「2050年ゼロカーボン社会づくり」を重点プロジェクトとして、省エネの推進、再エネの導入拡大などの4つの柱で事業を展開。
- ・2030年の温室効果ガス排出削減目標(2013年比で26%削減)については、今年度の改定において国の削減目標を踏まえて、見直しを行うこととしている。また、数値目標の見直しとあわせて、目標を達成するために、本県の実情を踏まえた施策に取り組むこととしている。

| | |
|------------|---------------------------------------|
| ④総事業費 | 3,955,359千円 (うち交付対象事業費3,892,151千円) |
| ⑤交付限度額 | 2,000,000千円 |
| ⑥交付金の費用効率性 | 13.8千円/トン-CO2 |

(2) 申請事業

①屋根置きなど自家消費型の太陽光発電

| | | |
|-------|--|--|
| 令和4年度 | 太陽光発電設備の個人向け間接補助事業 蓄電池の個人向け間接補助事業 | (140件、560kW) (140件、560kWh) |
| 令和5年度 | 庁舎等への自家消費型太陽光発電設備の導入 太陽光発電設備の個人・事業者向け間接補助事業 蓄電池の個人向け間接補助事業 | (1件、20kW) (個人400件、1,600kW 事業者20件、800kW) (400件、1,600kWh) |
| 令和6年度 | 庁舎等への自家消費型太陽光発電設備の導入 太陽光発電設備の個人・事業者向け間接補助事業 蓄電池の個人向け間接補助事業 | (2件、170kW) (個人400件、1,600kW 事業者20件、800kW) (400件、1,600kWh) |
| 令和7年度 | 庁舎等への自家消費型太陽光発電設備の導入 太陽光発電設備の個人・事業者向け間接補助事業 蓄電池の個人向け間接補助事業 | (4件、170kW) (個人400件、1,600kW 事業者20件、800kW) (400件、1,600kWh) |
| 令和8年度 | 庁舎等への自家消費型太陽光発電設備の導入 太陽光発電設備の個人・事業者向け間接補助事業 蓄電池の個人向け間接補助事業 | (3件、85kW) (個人400件、1,600kW 事業者20件、800kW) (400件、1,600kWh) |
| 合計 | 庁舎等への自家消費型太陽光発電設備の導入 太陽光発電設備の個人・事業者向け間接補助事業 蓄電池の個人向け間接補助事業 | (10件、445kW) (個人1,740件、6,960kW 事業者80件、3,200kW) (1,740件、6,960kWh) |

②地域共生・地域裨益型再エネの立地

| | | |
|-------|---------------------------|-----------|
| 令和8年度 | バイオマス発電・熱利用設備の事業者向け間接補助事業 | (1件、50kW) |
| 合計 | バイオマス発電・熱利用設備の事業者向け間接補助事業 | (1件、50kW) |

③公共施設など業務ビル等における徹底した省エネと再エネ電気調達と更新や改修時のZEB化誘導

| | | |
|-------|--|-------------------------------|
| 令和5年度 | 県有施設の省エネ改修(高効率空調への更新) 県有施設の省エネ改修(高効率照明への更新) 事業所における省エネ改修の事業者向け間接補助事業 | (3件) (1件) (20件) |
| 令和6年度 | 県有施設の省エネ改修(高効率空調への更新) 県有施設の省エネ改修(高効率照明への更新) 事業所における省エネ改修の事業者向け間接補助事業 | (5件) (1件) (20件) |
| 令和7年度 | 県有施設の省エネ改修(高効率空調への更新) 県有施設の省エネ改修(高効率照明への更新) 事業所における省エネ改修の事業者向け間接補助事業 | (7件) (1件) (20件) |
| 令和8年度 | 県有施設の省エネ改修(高効率空調への更新) 県有施設の省エネ改修(高効率照明への更新) 事業所における省エネ改修の事業者向け間接補助事業 | (16件) (1件) (20件) |
| 合計 | 県有施設の省エネ改修(高効率空調への更新) 県有施設の省エネ改修(高効率照明への更新) 事業所における省エネ改修の事業者向け間接補助事業 | (延べ31件、23箇所) (4件) (80件) |

④住宅・建築物の省エネ性能等の向上

| | | |
|-------|---|-----------------|
| 令和4年度 | 高効率給湯器等の個人向け間接補助事業 既存住宅断熱改修の個人向け間接補助事業 | (10件) (25件) |
| 令和5年度 | 高効率給湯器等の個人向け間接補助事業 既存住宅断熱改修の個人向け間接補助事業 | (20件) (50件) |
| 令和6年度 | 高効率給湯器等の個人向け間接補助事業 既存住宅断熱改修の個人向け間接補助事業 | (20件) (50件) |
| 令和7年度 | 高効率給湯器等の個人向け間接補助事業 既存住宅断熱改修の個人向け間接補助事業 | (20件) (50件) |
| 令和8年度 | 高効率給湯器等の個人向け間接補助事業 既存住宅断熱改修の個人向け間接補助事業 | (20件) (50件) |
| 合計 | 高効率給湯器等の個人向け間接補助事業 既存住宅断熱改修の個人向け間接補助事業 | (90件) (225件) |

(3) 事業実施における創意工夫

○ 再エネの導入拡大

家庭及び事業所における太陽光発電設備の導入促進と併せて蓄電池の導入も促進することにより、発電したエネルギーの有効活用を図るとともに、災害時等のレジリエンスの強化を図る。

また、肉用牛と豚の飼育頭数がそれぞれ全国第3位、第2位であるなど、畜産業が盛んな本県において、牛ふん等を活用したバイオマス発電設備の導入を促進することにより、産業振興と脱炭素化の実現を図ることとしている。

○ 省エネの推進

新築に対する国のZEB・ZEH支援の取組と連動して、既存の住宅やビルの省エネ型への転換を推進するに当たり、トップクラスの日照時間によって夏場の外気熱の流入の主要因とはなっているが、あまり対策がとられていない“窓”の断熱化について重点的に取り組むこととしている。

また、高いエネルギー効率で、自家発電や廃熱利用を行うコージェネレーションシステムの導入を促進することにより、災害時等のレジリエンスを高めるとともに、熱利用が多い事業所等における排出量を削減する。

○ 県有施設における排出量削減

県有施設のゼロカーボン化については、モデル的に2つの施設において先行して太陽光発電設備の設置及び省エネ改修に取り組む中で、施設や設備におけるエネルギー使用状況を踏まえながら、効果的に再エネと省エネを組み合わせ、集中的に排出量削減を図ることとしている。

(4) 事業実施による波及効果

県庁自身の再エネ設入や省エネ設備の導入の取組と併せて、個人・企業の取組にも積極的に支援することで、実効的な温室効果ガス排出量の削減のみならず、2030年削減目標及び2050年ゼロカーボン社会づくりの達成に向けて、取組モデルの創出及び波及効果が期待できる。

また、プロモーションなどによって広報を効果的に実施し、本事業による取組事例や効果等と併せて支援策を周知することで、県民・事業者の機運醸成を図るとともに、具体的な取組内容を提示することにより、県域全体への波及効果を促進する。

(5) 推進体制

環境森林部環境森林課を中心に、庁内の各関係部局と連携を図りながら実施する。

(補助事業執行体制)



※担当係長1名、担当者3名、補助金執行の事務処理を行う職員・・・R4：1名雇用、R5～8：委託

| | | | |
|-----------|--------------------|----------|---------|
| 3. その他 | | | |
| (1) 財政力指数 | 令和2年度 | 宮崎県財政力指数 | 0.35767 |
| (2) 地域特例 | 該当地域：なし 対象事業：なし | | |